

令和5年度病虫害発生予報第8号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
カンキツ	貯蔵病害（緑かび病、青かび病）	並
キャベツ	黒腐病 べと病 菌核病 アブラムシ類	やや少 やや少 やや少 やや多
ブロッコリー	黒腐病 べと病 菌核病 アブラムシ類	やや少 やや少 並 やや多
レタス	灰色かび病 菌核病 斑点細菌病 モザイク病 アブラムシ類	並 並 並 やや多 やや多
イチゴ（施設本圃）	うどんこ病 アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類	並 やや多 やや多 やや多
ニンジン	黒葉枯病	やや少
野菜、花きの 共通害虫	ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ コナガ タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）	やや多 やや多 やや多 やや多

太文字の病虫害：向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病虫害を示す。

* 予報根拠中の記号

- (+)：発生量を多くする要因
- (-)：発生量を少なくする要因
- (±)：発生量が平年並になる要因

令和5年度 病害虫発生予報 第8号（11月）

A. 果樹の病害虫

－カンキツ－

1. 貯蔵病害（緑かび病、青かび病）

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： 並

根 拠 (1) 一般圃場での10月下旬の発生量はやや少なかった（－）が、一部地域でやや多かった（＋）。また、裂果、日焼け果がやや多かった。（＋）

(2) 11月の気象は降水量が平年並か少ない予報である。（－）

対 策 (1) 収穫10～30日前に薬剤防除を行う。

(2) 収穫、運搬、選果時には果実を傷つけないように注意し、貯蔵する前には必ず予措を行うとともに、貯蔵中は貯蔵庫内の温湿度管理に十分配慮する。

B. 野菜、花きの病害虫

－キャベツ－

1. 黒腐病

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： やや少

根 拠 (1) 10月下旬の発生は平年と同様に認めなかった。（±）

(2) 11月の気象は降水量が平年並か少ない予報である。（－）

対 策 (1) 薬剤防除は予防的に7～10日間隔で行う。曇雨天が続くような場合に発病を認めたら適宜防除する。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので害虫防除を徹底する。

(2) すでに発生している圃場ではオキシリニック酸やカスガマイシンを含む薬剤を散布する。

(3) 台風など大雨や強風の後には感染が助長されるので、早めに薬剤防除を行う。

2. ベと病

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： やや少

根 拠 (1) 10月下旬の発生は認めなかった。（－）

(2) 11月の気象は降水量が平年並か少ない予報である。（－）

対 策 (1) 圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう肥培管理する。

(2) 薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐことによって散布回数を減らすよう努める。

(3) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. 菌核病

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： やや少

根 拠 (1) 冬キャベツでの10月下旬の発生は認めなかった。（－）

(2) 11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か少ない（－）予報である。

対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、ただちに防除を行う。

(2) 結球開始前から株元に十分かかるよう薬剤を散布する。

(3) 発生の多い圃場では連作しない。

(4) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

4. アブラムシ類

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： やや多
- 根 拠 (1) 10月下旬の発生は認めなかった。(－)
(2) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は多かった。(＋)
(3) 11月の気象は気温が高く(＋)、降水量が平年並か少ない(＋) 予報である。
- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 育苗期から生育初期に粒剤等を施用する。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－ブロッコリー－

1. 黒腐病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： やや少
- 根 拠 (1) 10月下旬の年内どりブロッコリーでの発生は認めなかった。(－)
(2) 11月の気象は降水量が平年並か少ない予報である。(－)
- 対 策 (1) 薬剤防除は予防的に7～10日間隔で行う。曇雨天が続くような場合に発病を認めたら適宜防除する。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので害虫防除を徹底する。
(2) すでに発生している圃場ではオキシリニック酸やカスガマイシンを含む薬剤を散布する。
(3) 台風など大雨や強風の後には感染が助長されるので、早めに薬剤防除を行う。

2. ベと病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： やや少
- 根 拠 (1) 10月下旬の年内どりブロッコリーでの発生量は平年並であった。(±)
(2) 11月の気象は降水量が平年並か少ない予報である。(－)
- 対 策 (1) 圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう肥培管理する。
(2) 薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐことによって散布回数を減らすよう努める。
(3) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. 菌核病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並
- 根 拠 (1) 10月下旬の年内どりブロッコリーでの発生は平年と同様に認めなかった。(±)
(2) 11月の気象は気温が高く(＋)、降水量が平年並か少ない(－) 予報である。
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
(2) 圃場の排水を良くする。
(3) 発生の多い圃場では連作しない。
(4) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

4. アブラムシ類

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 10月下旬の発生量は平年並であった。(±)
(2) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は多かった。(＋)
(3) 11月の気象は気温が高く(＋)、降水量が平年並か少ない(＋) 予報である。
- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 育苗期から生育初期に粒剤等を施用する。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－レタス－

1. 灰色かび病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並
- 根 拠 (1) 10月下旬の12月どりレタスでの発生は平年と同様に認めなかった。(±)
(2) 11月の気象は気温が高く(＋)、降水量が平年並か少ない(－) 予報である。
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
(2) 圃場の排水を良くする。
(3) 薬剤散布は株元を中心に、丁寧に行う。
(4) 苗床からの持ち込みも多いので、苗床での薬剤防除を実施する。
(5) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 菌核病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並
- 根 拠 (1) 10月下旬の12月どりレタスでの発生は平年と同様に認めなかった。(±)
(2) 11月の気象は気温が高く(＋)、降水量が平年並か少ない(－) 予報である。
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
(2) 圃場の排水を良くする。
(3) 灰色かび病防除に準じて対策を行う。
(4) 灰色かび病の耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。
(5) 発生の多い圃場では連作しない。

3. 斑点細菌病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並
- 根 拠 (1) 10月下旬の12月どりレタスでの発生は平年と同様に認めなかった。(±)
(2) 11月の気象は気温が高く(＋)、降水量が平年並か少ない(－) 予報である。
- 対 策 (1) 育苗は風当りの弱いところで行い、できるだけ傷をつけないように管理するとともに、軟弱徒長にならないよう注意する。
(2) 圃場の排水を良くする。
(3) ベタがけ被覆しているところでは、降雨が続くと多発するおそれがあるので注意する。
(4) 強風を伴う降雨が続いた後には薬剤防除を実施する。また、結球期から収穫期にかけて発病が増加するので、下葉に発生が見られたら早めに防除する。

4. モザイク病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 10月下旬の12月どりレタスでの発生量は多かった。(+)
(2) 10月下旬の12月どりレタスでのアブラムシ類の発生は認めなかった。(－)
(3) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は多かった。(＋)
- 対 策 (1) 発病株は早期に抜き取り適正に処分する。
(2) アブラムシ類の防除を行う。また、定植時には、アブラムシ類を対象に灌
注処理や粒剤施用をする。

5. アブラムシ類

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 10月下旬の12月どりレタスでの発生は認めなかった。(－)
(2) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は多かった。(＋)
(3) 11月の気象は気温が高く(+)、降水量が平年並か少ない(+) 予報である。
- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 育苗期から生育初期に粒剤等を施用する。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－イチゴ（施設本圃）－

1. うどんこ病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並
- 根 拠 10月下旬の発生量は平年並であった。(±)
- 対 策 (1) 薬剤散布は予防的に5～7日間隔で行う。
(2) 茎葉が繁茂していると薬剤が十分に到達しにくい場合があるので、丁寧に
散布する。
(3) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. アブラムシ類

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 10月下旬の発生量は平年並であった。(±)
(2) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は多かった。(＋)
(3) 11月の気象は気温が高い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 茎葉が繁茂していると薬剤が十分に到達しにくい場合があるので、丁寧に
散布する。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. コナジラミ類

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 10月下旬の発生量は平年並であった。(±)
(2) 11月の気象は気温が高い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 一部の薬剤に対して抵抗性の発達が認められるので、作用性の異なる薬剤
で防除する。

4. ハダニ類

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 10月下旬の発生量は平年並であった。(±)
(2) 11月の気象は気温が高い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 人による持ち込みを回避するため、発生圃場に入った着衣のまま未発生圃場に立ち入らない。
(2) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(3) 発生が局所的な場合には、気門封鎖剤のスポット散布を行う。
(4) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－ニンジン－

黒葉枯病

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： やや少
- 根 拠 (1) 10月下旬の発生は認めなかった。(－)
(2) 11月の気象は降水量が平年並か少ない予報である。(－)
- 対 策 (1) 肥料切れに注意し、株の勢いが衰えないように栽培管理する。
(2) 薬剤防除は予防的に実施する。

－野菜、花きの共通害虫－

1. ハスモンヨトウ

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 10月下旬の発生量は、キャベツではやや少なく(－)、レタスでは平年と同様に発生を認めず(±)、ブロッコリーでは平年並(±)であった。また、一部地域の野菜、花き類で発生量がやや多かった。(＋)
(2) 防除員報告ではイチゴで発生量の多い地区があった。(＋)
(3) フェロモントラップでの10月の誘殺数は平年並であった。(±)
(4) 11月の気象は気温が高く(＋)、降水量が平年並か少ない(＋)予報である。
- 対 策 (1) 若齢幼虫は集団で食害するため、被害葉は表皮だけを残して白色になっているので、本圃の果菜類等ではこれらを発見したら摘葉するとともに薬剤防除を行う。
(2) 施設の出入口やサイド換気口等の開口部に防虫ネットを張り、侵入を防止する。
(3) 中老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、体長1 cm以下の若齢幼虫期に薬剤防除を行う。
(4) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. シロイチモジヨトウ

- 予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 10月下旬の発生量はブロッコリーでは平年並(±)、青ネギではやや少なかった(－)。また、一部地域の野菜類で発生量がやや多かった。(＋)
(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの10月の誘殺数は平年並であった。(±)
(3) 防除員報告では青ネギにおいて発生量が多い地区があった。(＋)
(4) 11月の気象は気温が高く(＋)、降水量が平年並か少ない(＋)予報である。
- 対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 施設の出入口やサイド換気口等の開口部に防虫ネットを張り、侵入を防止

する。

- (3) 中老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、体長1 cm以下の若齢幼虫期に薬剤防除を行う。
- (4) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. コナガ

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**

- 根 拠 (1) 10月下旬の発生はキャベツでは平年と同様に認めず(±)、ブロッコリーでは平年並であった(±)。
(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの10月の誘殺数は平年並であった。(±)
(3) 11月の気象は気温が高く(+)、降水量が平年並か少ない(+) 予報である。
- 対 策 (1) 苗床は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入防止対策を講じる。
(2) 定植時に灌注処理や粒剤施用するとともに発生初期から薬剤防除を行う。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

4. タバコガ類(タバコガ、オオタバコガ)

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**

- 根 拠 (1) 10月下旬の発生はキャベツとレタスでは平年と同様に発生を認めず(±)、ブロッコリーではやや少なかった(-)。
(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの10月のタバコガ類の誘殺数はやや少なかった。(-)
(3) 防除員報告では丸亀市飯山町のフェロモントラップでのオオタバコガの誘殺数はやや少なかった。(-)
(4) 11月の気象は気温が高く(+)、降水量が平年並か少ない(+) 予報である。
- 対 策 (1) 施設の出入口やサイド換気口等の開口部に防虫ネットを張り、侵入を防止する。
(2) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(3) 花蕾や生長点を食害するので被害が見えたら直ちに薬剤防除を行う。
(4) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。
・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

